

平成21年度主要農作物品種審査会（稲及び麦類）会議録

1 日 時：平成21年9月4日（金）

2 場 所：宮城県行政庁舎 11階 第2会議室

3 出席者：

(1) 審査会委員：國分牧衛，中鉢 充，中野 修，岩淵せつ子，佐藤公夫，岩片弘信，齋藤満保，
真木伸治，城所 隆（敬称略）

(2) 審査会幹事：阿部俊彦，津場俊行，及川 勉，佐々木俊彦，井城克廣

4 会議録

（午前10時開始）

○事務局（蘇武技術補佐）

ただ今より，主要農作物品種審査会を開催いたします。

開会の御挨拶を國分会長よりお願いいたします。

○國分会長

（挨拶要旨）：

今日は，お忙しい中，御出席いただきましてありがとうございます。

この審査会は，新しい品種の候補が出たときや今後どういう系統を奨励品種にしていくか，を審議いただいております。今日は，知事から2点の諮問を受けており，ひとつは水稻の新品種候補について審議していただきます。もうひとつは麦類の奨励品種決定調査に供する品種について御審議をいただくこととなっております。

まずはお米ですが，宮城県には「ひとめぼれ」という日本を代表する品種があり，これ以上新しい品種が必要なのかという人もいらっしゃいますが，需要者によっては，様々な用途への使用がありますし，農家の立場からは，特に経営面積の大きい農家からしますと，コンバインの稼働時間などから，もう少し早生や晩生のものがあったらいい，ということもございます。今回は，「ひとめぼれ」よりも遅いものというのが一つのねらいとなっております。晩生の奨励品種については「コシヒカリ」がありますが，おいしいものの，倒れやすいということがあり，農家の方々の要望もあるところです。この「つや姫」については，耐倒伏性が強化されているようです。株稲も展示されておりますが，「コシヒカリ」よりも一段短い特徴があるようです。あとは味になりますが，本日は試食もあるようですので，皆さんの舌で味わっていただけたらと思います。

もう一つの諮問事項は，麦類の奨励品種決定調査の関係です。宮城の麦類は，水稻の「ひとめぼれ」のような高い評価はなくて残念なところですが，実需者からは，いいものであればもっと欲しいという需要があるようです。ただ，生産の側からは，赤かび病に弱いことなどが問題となっているようですので，少しでも，強いものを選んでいかななくてはならないところです。

本日は，以上の事項について，活発な御審議をお願いいたします。なお，本日の会議は，審査会条例によりまして公開での開催となっておりますので，委員の皆様方には御了承願います。

○事務局（蘇武技術補佐）

（出席委員の紹介。委員10名中9名の出席により会議が成立することを報告。）

○國分会長

それでは審議に入りたいと思います。本日の諮問事項については、資料の1ページを御確認願います。まずは、(1) 水稻品種「つや姫」を奨励品種に指定することについて、諮問をいただいております。この「つや姫」については、前回2月の審査会でも議論をいただきましたが、そのときは名前は付いていなくて、「山形97号」という系統番号でした。その後、品種名がついて、山形県では奨励品種となっているようです。その品種を宮城県の奨励品種にすることについて、事務局より説明をお願いします。

○事務局（佐々木幹事）

(資料2～28ページにより、水稻品種「つや姫」の品種特性について説明)

○國分会長

それでは御質問をお願いいたします。

18ページの表12の「粘り」ですが、プラスが粘るということでもよろしいでしょうか。そうだとすると、「つや姫」と「コシヒカリ」の文章と一致しているのかどうか、逆ではないかという気がしますが。

○佐々木幹事

表の左にある品種を基準品種としての比較であり、マイナスは粘らない、プラスは粘るということになります。

○國分会長

表の一番下にある平均欄で見ると、「つや姫」が-0.1、「コシヒカリ」が-0.3となっているのは、いかがでしょうか。

○佐々木幹事

その欄は「つや姫」、「コシヒカリ」と、「ひとめぼれ」を比較したもので、「つや姫」と「コシヒカリ」の比較は、下から3行目の欄となります。

○國分会長

つまり、「コシヒカリ」より粘らないという判断になるということですね。他にありませんでしょうか。

○齋藤委員

今のご説明ですが、直接の比較ではないとしても、「ひとめぼれ」と比較して「コシヒカリ」は粘らないという評価があることは、「つや姫」と「コシヒカリ」であまり差がないということになるのではないのでしょうか。年次間の逆転もあるように見えます。表13の現地データと総合すれば、「コシヒカリ」と似ているのかなという感じがします。

○國分会長

私が疑問に思ったのも同様ですが、「ひとめぼれ」と比べると、「つや姫」は粘りに差がなく、「コシヒカリ」は粘らないということなので、このデータからは、「コシヒカリ」のほうがあつ

さりしているということになり矛盾しているのではないかということです。

○佐々木幹事

御指摘のとおり、3品種の比較で見ると、（粘りは）きれいに傾向が出ていない状況ですが、総合評価では差がないと判断しております。

○國分会長

基準品種を「コシヒカリ」にしたときと、「ひとめぼれ」にしたときで、「粘り」の評価に少し矛盾があるようです。

表12の古川農試産では、味が劣るとしてありますが、これはよろしいでしょうか。まとめとしては、良食味であるとのことで、総合評価は「コシヒカリ」と差がないようです。

○佐々木幹事

古川農業試験場産では味が劣る評価となりますが、現地調査では味、粘り、総合評価とも差がないという評価ですので、まとめの評価は、これらを勘案したものです。

○國分会長

味については重要なところなので、試食の準備をお願いします。

その間に御質問をお願いします。

○齋藤委員

資料の10ページですが、現地の角田と亘理では、「コシヒカリ」との出穂期の差に違いがあるようですが、地域の差によってそのような差があるものなのかお伺いします。

○佐々木幹事

各現地と古川農業試験場で3～4日程度の差が見られますが、栽培様式についてはあまり差がないと思います。角田と亘理は地理的にはあまり離れておりませんが、具体的なデータがありませんのではっきりしませんが、海や日照の影響があるかと推測されます。

○國分会長

試食の準備ができたようですので、古川農業試験場から試食方法をお願いします。

○事務局（八島技師）

（試食方法を説明）

（「つや姫」及び「コシヒカリ」のおにぎりの試食）

○事務局（蘇武技術補佐）

（株稲及び玄米の展示を紹介）

○國分会長

それでは、試食が終わったようですので、一言ずつコメントをお願いします。

○中野委員

どちらも大変おいしく感じました。「つや姫」の方が「つや」はいいように見えたが、他の「粘り」や「食感」などの差ははっきりしませんでした。

○岩片委員

新潟の魚沼に親戚がいるので、普段は魚沼の「コシヒカリ」を食べていますが、今日の「コシヒカリ」は少しおいしくないと感じました。むしろ「つや姫」のほうが普段食べている魚沼の「コシヒカリ」に近い感じで、おいしく感じました。少し柔らかい食感なので、「つや姫」の方が粘りがあるように感じました。

○真木委員

私は生まれ育ちが米どころではないのでどちらもおいしくいただきました。「粘り」は「コシヒカリ」の方があると感じましたが、あっさりした感じの「つや姫」の方がおいしく感じました。

○城所委員

「つや姫」の方が粘りが少ないと感じましたが、両方おいしくいただきました。試食したお米は、（北部平坦地帯の中でも気温の低い）古川農業試験場産なので、（極晩生品種の）特徴を十分引き出しているかは少し心配なところです。

○齋藤委員

「つや姫」はやや柔らかい食感でした。個人的には「コシヒカリ」の方が歯ごたえがあって好みでしたが、どちらもおいしいと感じました。

○佐藤委員

作るのが自信があるのですが、家で作る「ひとめぼれ」よりもちょっと落ちるかなと思いました。草丈が短くて作りやすいので、今後伸びていく可能性があるのではないかと思います。

○岩淵委員

好みで言うと「つや姫」がおいしく感じました。「コシヒカリ」は口の中でパラパラとほぐれてしまい、歯でよくかまないとつぶれない感じで、粘りというより、弾力があるように感じました。「つや姫」は粒と粒が粘ってくっついていて、まとまっている感じで、特に、今後の高齢化社会を考えると、高齢者の方に食べやすいお米ではないかと感じました。

○中鉢委員

普段は「ひとめぼれ」を食べていますが、「つや姫」には柔らかい粘りを感じました。「コシヒカリ」は粘りますが、歯ごたえのある硬い感じでした。ということで、「つや姫」の方が柔らかい粘りで新鮮な感じを受けました。

○國分会長

対照の「コシヒカリ」がボサボサした感じで、岩片委員のおっしゃるとおり、新潟のものとはかなり違うような気がしました。私は、「レイメイ」や「アキヒカリ」、「フジミノリ」を食べ

て育ったので、宮城の米の食味は3ランクぐらい上なので、すべておいしいとは感じるのですが、「つや姫」は柔らかくて、口に優しい感じがしました。最近あまり食べませんが、「ササニシキ」に近い味かなという印象でした。皆さんだいたい共通した印象を持たれたようですが、他にございますでしょうか。

試食したのは、標肥栽培のお米かと思いますが、多肥栽培で多収のようですが、多肥にしたときの食味はいかがでしょうか。

○佐々木幹事

奨励品種決定調査の食味試験は標肥栽培のものだけで行っております。施肥設計に関しては現在試験中なので、多肥での食味についても、今後明らかにできると思います。

○事務局（千葉技術副参事）

普及見込み地帯では、環境保全米ということで、施肥窒素量を抑制した栽培方法をとっているところが多く、実際の栽培では標肥栽培が実施されると考えております。多肥の食味は不明なところはありますが、あまり影響はないと考えております。

○國分会長

普及地帯が平坦地中心ですが、極晩生ということで、成熟の遅れの影響のあまりない地域中心という考え方でしょうか。

○事務局（千葉技術副参事）

（資料5～7，29ページにより、水稻品種「つや姫」を奨励品種に採用する理由、普及地帯等について説明）

○國分会長

特性的には短稈で作りやすいという特徴があります。不足する点としては、耐冷性が”中”ということでやや不十分な点もあるようですが、極晩生品種なので冷害危険期が8月上旬頃になり、特性的には劣っていても、実際の栽培上の危険性は高くないということのようです。遅延型冷害に関しても、8月25日までに収穫すれば平年の気象であれば問題ないようです。

奨励品種の区分については、基幹と特定がありますが、まずは、「コシヒカリ」と同じ特定品種ということのようです。

他にございませんでしょうか。ないようでしたら、諮問のとおり「つや姫」を奨励品種に指定するという事によろしいでしょうか。

（賛同の声）

○國分会長

それでは、諮問のとおりとしたいと思います。次に、諮問事項の2点目に入りたいと思います。平成21年度の麦類の奨励品種決定調査に供する品種について事務局からお願いいたします。

○佐々木幹事

（資料30～31ページにより、麦類の平成21年度奨励品種決定調査に供する品種について

説明)

○國分会長

御質問，御意見をお願いいたします。

麦を作っている農家の方と話すと，赤かび病に強い品種が欲しいという声を多く聞きます。「ゆきちから」のデータを見ると，年次によってかなり多く発生する年があるようです。検討中の品種は，「ゆきちから」と比べるといくらか強い品種のようですが，それでも年によっては（0～5までの評価で）2～3になる年があるようです。多発年でも1くらいの品種があるといいと言われていますが，見込みはどうでしょうか。

○事務局（千田技師）

試験場からも育成地に赤かび病に強い品種を要望しております。今年度の供試系統は，いずれも「ゆきちから」よりは耐病性の強い系統となっておりますが，まだまだ不十分なようです。

○國分会長

ありがとうございました。あと，穂発芽も問題ですが，こちらは強い品種が出てきているようです。宮城県では育成はしていないので，東北農業研究センターや作物研究所の育成系統の中から選んで検定しているようです。

皆さんからはいかがでしょう。ないようでしたら，諮問事項（2）の麦類の平成21年度奨励品種決定調査に供する品種については，原案どおりとして答申したいと思います。

以上で，諮問事項2点の審議について終了したいと思います。2点とも妥当であるということで，答申してよろしいでしょうか。また，答申案については，私と事務局で調整したいと思いますが，よろしいでしょうか。

（賛同の声）

○國分会長

それではそのようにしたいと思います。

以上で審議は終了ですので，議長の任を解かせていただきたいと思います。御審議ありがとうございました。

○事務局（蘇武技術補佐）

ありがとうございました。事務局より事務連絡をさせていただきます。当審査会は年2回開催させていただいておりますが，次の審査会は2月を予定しております。平成22年度の奨励品種決定調査に供する稲及び大豆の品種について御審議をいただく予定としております。具体的な日程につきましては，決定次第御連絡を申し上げますので，よろしくをお願いいたします。

以上をもちまして，本日の主要農作物品種審査会を終了させていただきます。委員の皆様方には，長時間にわたり御審議をいただきましてありがとうございました。

（午前11時20分終了）